

東京 陵 水

平成16年度総会
を成功させよう
陵水会東京支部役員一同

平成十六年度東京支部総会・五月十九日開催

特別講演 『大学改革で母校はどうなる』

平成十六年度東京支部総会 得た講話をいただくことにしては、来る五月十九日、大学十六

回卒業生が当番幹事として企画・運営を担当、指揮のもと開会の運びとなった。

卒業年次別当番幹事による総会開催手配も三回を迎え、開催日程の決定、特別講演の企画など昨年度総会後から鋭意取り組んできた。

会場を新たに文京区後楽園西隣の労働福祉事業団所管の「後楽園会館」に設定、交通の便宜性と経費の効率化をはかる。

特別講演では、新年度から母校経済学部長にご就任の阿知羅隆雄教授（博士・経済学、マネジメント専攻）から「大学改革で母校はどうなる」の演題により、当会会員が最も関心を寄せる「国立大学の独立行政法人化」後の母校の将来につき、時宜を

目次

- | | |
|-------|----------------------|
| 1 面 | 平成十六年度支部総会 |
| 2 面 | あしなが育英会・近江塾 |
| 3～8 面 | 記念講演
「現代企業経営とリスク」 |
| 9 面 | 「こんにちは」 |
| 12 面 | 有田正三先生を偲ぶ |
| 13 面 | 「OB戦徒草」から |
| 14 面 | 寄稿・図書紹介 |
| 15 面 | 彦根コンフィデンシャル |
| 16 面 | 募金者名簿・編集室所感 |

（挨拶）北村裕明前経済学部長
（特別講演）阿知羅隆雄経済学部長

テーマ「大学改革で母校はどうなる」

⑤ 懇親会 参加者全員

本年度総会の開催に向けて

いよいよ五月十九日、本年度の陵水会東京支部総会が開催されます。今回は第十六回卒業生が担当であり、次回は第十七回卒業生と順送りとなります。今後の参考に、総会開催に至るまでの経緯を振り返って見ます。

先ず開催日の決定です。当初は東京支部新メンバーも落着く七月中旬頃を考えていました。が、六月上旬の陵水会本部の総会以前に東京支部総会を終えておきたいという幹部の方々の意向と、大学側との日程調整の結果、五月十九日に落着きました。しかし年度が変わって間もない開催のため、集客・準備の面で

は不安が残ります。

次は、会場の決定です。会場は参加費確定の大きな要因となるため、先輩達も毎年苦労しています。当初、昨年、一昨年の会場であった東横厚生年金会館を第一候補としましたが、あいにくこの時期は和服の展示会が多く予約が出来ません。急遽、役員の方から後楽園会館を紹介いただき、予約にこぎつけました。後楽園会館は東京労働局の建物内にある公的機関です。お蔭さまで会費も抑えることができてホッとしました。

第三に、参加者数を左右する演題・講師の決定です。今回は滋賀大学OB共通の関心事を選



後楽園会館

択しました。今回の大学改革でわが母校はどうなるか？ 母校変革の時期でもあり、実にタイミングのよいテーマであると思われまふ。講師もこれを語るに最もふさわしい方をお招きしております。是非多くの方々にお願いしたいものです。

最後に何といってもやはり気になるのは参加者の数です。同期会には参加しても総会にはどうもという会員を多く知っています。今回は特に支部役員会の承認を得て、総会当日に受付でお願いしていただいている年会費は、本年単年度分のみと致します。また、女性会員に対しては、参加費用の配慮を検討しています。

国立大学同窓会の動きが活発化していることを耳にするにつけても、当番幹事として多くの会員のご参加を強く望むところです。特に新メンバーとなられた方々にとっては、先輩、後輩との親交を深める絶好のチャンスです。新しい出会いを見つけ出すことができます。ゼミ、クラブの繋がりの深い先輩後輩とも声を掛け合っていたとき、盛大な総会とすべくご協力をお願いし、ご来場をお待ちします。

（大16回 尾関一平）

後楽園会館周辺マップ(支部総会会場)



「あしなが育英会」に朝日社会福祉賞・「感謝のつどい」開催される

平成十五年度の朝日社会福祉賞(朝日新聞社)が、二月十三日、玉井義臣氏(大6)が会長をつとめる「あしなが育英会」に贈呈されたが、この受賞を記念して、『朝日社会福祉賞』を祝うあしなが感謝のつどい」が、平成十六年二月二十八日(土)午後二時から、千代田区麹町の東条会館において開催された。

「つどい」への出席者は、「あしながさん」をはじめとする多数の一般関係者(数名の陵水会メンバーを含む)、あしなが遺児奨学生OB・OG、現役学生等計三百二十名余りにのびた。これまでつづけられてきた同会の活発な活動の集大成ともい



「東京陵水」第八十六号掲載の「こんにちは」玉井義臣氏訪問IIをご参照下さい。

(編集部)

うべく、参加者の晴れ晴れとした笑顔が「つどい」いっぱい、満ちあふれ、会長の玉井氏を中心として和気藹々の交歓が交わされていた。

注：玉井義臣氏を中心とした「あしなが育英会」の活動については、本紙「東京陵水」第八十六号掲載の「こんにちは」玉井義臣氏訪問IIをご参照下さい。

第三回近江歴史塾の開催

昨年七月に第一回が開催され、好評の結果を得て、第二回が同十月に開催。今回第三回が今年一月二十八日、二十九日にわたり同日とも、午後一時三十分から同四時十分まで、同じ講義内容で開かれた。会場の江戸東京博物館一階ホールは、両日も聴衆が溢れ、滋賀県人気を物語っていた。

彦根城博物館学芸員、谷口徹氏による「井伊直弼の娘たちの雛と雛道具」では、井伊家のルーツから説き起こし、直弼に至るまでの同家の徳川幕府での重要な役割と功績、直弼の生涯が語られ、同人の次女弥千代と七女砂千代が所持保存していた雛人形とそれにつながる道具のミニチュア、両人の婚礼調度などの美術的評価がスライドを使用して説明された。

第二講は旅行作家西本柳枝氏が「近江・春 来る春を近江の人と遊びたる」と題して、近江を巡る文学作品をもとに、近江の春のすばらしい景観を琵琶湖の明澄な水のきらめき、春の祭りの賑わいを髣髴させる話し振りで解説され、聴衆を近江の旅に誘う語り口であった。

本年二月五日(木)午後二時三十分から同五時にかけて、港区芝公園三丁目の東京プリンスホテル二階「プロビデンスホール」において、滋賀県と同県産業立地推進協議会の主催により、「びわ湖産業立地セミナー」が開かれた。当日の会場は主催者側からの企業関係招待者を主に、滋賀県内地方自治体からの企業立地企画担当者、若干の一般者も多く出席者で席が埋まり、盛況を呈した。

「びわ湖産業立地セミナー」の開催 「たくましい経済県」の実現に向けて

現在、語られている経済のグローバル・スタンダードへの収斂は誤っている。グローバル・スタンダードの時代とはメガ(大)競争の時代であり、国境にとらわれず広がりを持った競争の展開の時代である。他と

環境を判りやすく参加者にイメージしてもらったためのビデオが上映された。

セミナープレゼンテーションが国松善次滋賀県知事から、映像を利用して行われた。滋賀県は「たくましい経済県」の実現に向けて戦略方向を定め、「滋賀県産業振興新指針」を策定し、創造型、自律型産業構造への転換を図ろうとしている。その実現に向けてここ十年で急増した理工科系大学の持つ医療や環境、バイオ、スポーツなどの「知的資源」と、ものづくり産業の「製造技術」が効果的・有機的に連携する産学官連携体制づくりに進めている。バイオ、IT

関連などの新しい分野を、時代を牽引する産業と位置付け、種々の施策を実施している。また優れた自然環境、人口の増加傾向など期待のできる多くの要素を持った県であり、ビジネスチャンスの生かせる場所である。大略以上の趣旨説明があった。次に同志社大学ビジネススクール教授の浜矩子氏による「日本経済の新たな地平」グローバル・スタンダードを超えて」の演題によりおおよそその内容の基調講演がなされた。

* (八頁五段へ続く)

平成十五年十一月三日、滋賀大学経済学部創立八十周年記念式典における記念講演の取材記録。

文責は当紙編集部にあります。

滋賀大学経済学部創立八十周年、おめでとうございます。伊藤忠商事は近江商人を源流とする会社です。滋賀県は伊藤忠商事生誕の地といっても過言ではありません。伊藤忠兵衛もこの地で生まれました。そういう意味では滋賀県に育てられたといえなくもない。滋賀大学経済学部は我々の仕事に関りのある学問をしている。そういう意味で社長としてお礼を申し上げたいという気持ちで参りました。

八十周年を契機として滋賀大学経済学部大学院にリスク研究の博士課程が設置され、現在の経営に沿った研究で大いに期待するところです。

身近にあるリスク

私達は日々リスクに囲まれています。人はこの世に生きていく限りリスクを避けて通ることは出来ない。死んでしまえばリスクも悩みもなくなるわけですが、生きている限り悩みとリス

クから逃げることは出来ない。企業も人と同じことがいえません。企業は活動し悩み、あるいは失敗をします。企業があらゆるリスクから避けようとするば、それは倒産し破綻し企業が消滅する時です。人生も企業もリスクから逃げることは出来ないのです。リスクに向かっている。これが企業の本質であり、人生の本質です。最近の企業経営においても年々企業リスクが増えています。技術が進歩し、工業が発展し、産業が拡大するに従ってリスクはますます増えています。グローバル

リゼーションが進めば進むほどリスクが更に増えてくる。そしてリスクは同じような形で、何回も繰り返しやってきます。人間とは何と馬鹿なものだと時々痛感するが、どんなに教訓とすべきことが起っても教訓になかなか成り難いものです。何回も同じリスクが繰り返される例としてこんな統計が出ています。この二百年の間に大きな橋の崩落が、確実に三十年毎に発生しているという研究があ

ります。三十年キツカリというのはなかなかないが、かなりの程度で三十年周期ぐらいに、世界の巨大な橋が崩落しているとこののは事実です。有名なものでは、一八七六年に、アメリカのオハイオ州で大きな橋が崩落、またスコットランドでも崩落して列車ともども海水に突っ込んだ橋があり、この橋は開通して数ヶ月後とのことでした。このような事故が何故起きるのか、これは技術の欠陥とは必ずしもいえないと思います。橋だけではなく、我々の企業経営においても同じようなリスクが何なりリスクが何

現代企業経営とリスク

滋賀大学経済学部創立八十周年式典記念講演

伊藤忠商事株式会社

代表取締役社長

丹羽 宇一郎氏

た頃に、また同じ頃カナダでも、大きな橋が落ちています。このようにピットリ三十年とはいかないがこれぐらいの周期で落ちている。いろいろな研究者の話によりますと、時代のコミュニケーションのギャップが丁度三十年ぐらいで途切れるのではな

いかにいうことが明らかになっています。また、原子力事故といわれるものが約二十年周期で発生しているといわれています。この背景には技術者の傲慢とか、社

会の傲慢とか心の緩みとかが大きく左右しているのではないかと見られています。世代間の技術のギャップ、技術コミュニケーションのギャップがこのように三十年周期性をもって発生しているようです。このような問題についての研究も、この度のリスク経営経済専攻過程のなかで行われるものと期待しています。

年かおきに発生しています。また同じような失敗を繰り返している。そしてこのリスクの幅が益々厚くなり拡大している、これが現在です。建設現場等での労働災害発生率の確率理論に「ハインリッシュの確率」という法則があります。これによると、一件の重大な災害が発生する以前に、二十九件の軽い災害が発生しているといいうのです。さらにその陰には、怪我など軽い災害ほどにまで至っていない、つ



まりヒヤツとしたり、ハツとしたり、危ないと思うような危険が三百件くらいは起きていたというのです。失敗とみてそれらを重大な事故と認識する裏には、ヒヤツとしたり、ハツとしたりした事件、あるいは災害に至らない事柄が隠されているということです。つまりリスクとして認識するのは一件かもしれないが、大きなリスクになり得る可能性のあるのは三百件くらいあるということです。リスクの厚み、広さに心すべきです。

世界の現状と日本経済に

内包しているリスク要因

現代経営とリスクを考える上で、世界や日本の経済の実情の中にどのようなリスクが介在し、あるいは含まれているかというものを理解する必要がある。恐らくはこれからの世界経済も日本経済も当然のことながらリスクだらけである。企業経営の中にも相当のリスクが含まれています。今後かなり大きな可能性のあるリスクもあります。

現在最も大きなリスクとして心しておかなければいけないのはアメリカのドルである。これは為替問題を含む大きなリスクが着々と育っているのではないかと思います。アメリカという帝国の力はローマ帝国を遙かにしのぐ力を持っているといわれています。軍事力はいうまでもありません。経済力はどうか。

現在、世界のGDPの三十・三パーセント、約三分の一をアメリカが占めています。日本は十五パーセント。アメリカの経済力は圧倒的に強い。更にリスク的に言えば、世界の経常収支赤字の七十五・五パーセント、四分の三がアメリカです。このことは世界の貯蓄の四分の三がアメリカのドル資産に変わっていると言えます。ドル資産への傾

斜があまりにも偏りすぎではないか。これ以上にドル資産に世界の富が攫われていくというのはいかなるものか。このことが大きなリスクの一つと考えられます。アメリカの抱えている経済の諸問題が、世界の金融のリスクに直結し始めています。長いスパンで世界の経済を見ると、知らず知らずのうちにアメリカに傾斜し過ぎてしまったのではないのでしょうか。このことは現下の経済を見るうえにおいて非常に重要なことではないかと思えます。アメリカへ世界からも日本からも投資活動を行っているが、利益を求めるあまり知らず知らずのうちにリスクを踏み越えていく、あるいは益々大きなリスクを内包させてしまうことになっているのではない



か。日本経済についても、財政問題と中国の問題が将来において大きなリスクに転嫁する可能性を持っています。輸出産業は非常に利益をあげているが、国内産業は個人消費がかなり低迷している。個人の貯蓄率はかなり低下してきています。一時は世界の貯蓄率を誇った日本の貯蓄額がアメリカに近くなった。貯蓄率は六・九パーセントを切

る。目先のことしかなかなかケアしない。長期的に見る時非常に大きなリスクになっている。

そこでまず財政問題です。今の財政を家計に置き換えると、五百万円の収入で七千万円の借金をしており、更に年間三百万円の借金が新たに増えていくという事です。税収入が五十兆円近く、借金は七百兆円、そして新たな借金を国債の発行で続けていく。果たしてこの収入で借金を返していくのに何年かかるか。しかも借金は三十兆円ずつ増えていく。日本の財政、すなわちこの家計簿はどうなるんだろう。子孫に借金なしで渡すことは無理である。日本の財政状態が今後どうなるかということとは非常に大きなリスクです。現在のところでは、国民の税負担率をこれからの財政のヴィジョン、姿と共に議論をしていく必要があります。単に消費税をどうする、法人税をどうする、環境税をどうするといった個別の画一的な議論ではなく、日本の将来の財政の姿をどうするんだという、もう少し枠組みとヴィジョンの話をしないと、この問題は解決しません。恐らく利益団体は自分の利益誘導のための税率の発想から財政を考えない。これでは国全体の姿が見えない。直近のリスクではないが、ガリリスクとは気がつかないでいる。次

次に中国の市場についてです。日本経済が再生発展してゆ�ためには、中国は日本経済の一つの市場です。生産基地であると同時に消費基地であるということから考えると、中国を一つの市場として捉えないと日本経済の発展は期待できない。中国市場は当社にとってもワンノブゼムであります。中国の市場は我々の市場だと考えて、いろいろと展開していくことを考えています。少なくとも二〇一〇年の上海エキスポまでは、中国経済は七・八パーセントの成長を維持してゆくだろうが、それが以降はわかりません。このことがリスクとなります。そういうことで、私は中国の元の切り上げはすべきではないと考えます。元の切り上げをしても日本経済にプラスにはなりません。中国の輸出会社の二社のうち一社は外資系の企業です。当社も入っているが、モトローラを筆頭に、アメリカ、日本、欧州の企業が中国の輸出の五十パーセントを実行している。もしも元が切り上げになると、日本の、

アメリカの事業会社は収益に実際に影響が出てきます。従って

益のあり方を変革することは難しい。

従って需要不足と供給過剰に関する政策を政府がとってゆかないかぎり、デフレーションを解決することは難しいのです。企業経営の上においても、需要不足からのリスクの影響は非常に大きく、充分心しなければなら

リスクを背負うという基本的な機能が企業にはあります。企業別の問題は、企業はリスクから逃れることは不可能であり、それを排除したりできません。どうやってこのリスクを乗り越えていくか。

この挑戦はある意味では「モグラたたき」に近いものがある。こちらのリスクを叩くとあちらのリスクが顔を出す。できるだけモグラの穴を小さくしたり、穴を埋めようとすると、小さな穴から爆発が起きるといようなことになる。そこでリスクを完璧に避けて走っていくよりも、小さなリスクを少しづつ平均にしていた方がいいのではないか、ヒョットしたら企業経営は大きなリスクを避けようとするあまり、リスクをうまくコントロールしようとして、かえって大きな爆発を起こしてしまうのではないか。一見平和に見える海の底は大変な荒波になっている可能性があるが、こういうことでリスクコントロールは極めて難しいことになります。

(図表による内容のため、一部割愛させていただきます。編集部)。

アメリカで一千億ドル、即ち対中貿易赤字が一千億ドルを超えたからといって、直ぐに元を切り上げると言うことに結びつけるのは間違っています。我々もこれから七、八年間は大きく垣を切って中国市場に入っていくつもりですが、その裏にはリスクが介在しています。

現在これだけ個人消費が落ち込み、四十八カ月連続でデフレーションになっています。消費者物価指数は連続四年間、毎月下がっている。これはただごとではありません。デフレーションはアメリカの歴史を見ても二つの要因で起きています。一つは供給過剰です。南北戦争の頃、一八六一年からその六五年まで生産性、プロダクティビティは産業革命の影響を受けて飛躍的に上昇、この中で供給過剰が生じました。二つ目は需要不足から起きるデフレーションです。一九二九年の「暗黒の火曜日」の話になります。デフレ

さて、企業経営の本質は、資源、人と金を不確実な世界に、未知の利害に投ずるということ。経営を進展させていくためには、経営資源を投じて大きな利益を得ていくことであります。資源を投じることであり、そこには不確実性があります。未知の世界、リスクがいっぱいある、そういうことからいって企業経営の本質はリスクそのもの

リスクそのもの

この意味で滋賀大学経済学部で、リスク研究センターが設置されると言うことは、経営の本質に迫ることかと思いきや、待っています。経営そのものがリスクを生み出し、そしてまた

リスクを管理コントロールするところに挑戦していく必要があるわけ

更に企業の経営にとってこれからリスクが非常に増えていくことが予想されます。日本の企業は競馬に例えるといまや第三コーナーに入っています。第一コーナーは不良債権の処理、第二コーナーは経費の削減、人員のカット、リストラ。第一コーナー、第二コーナーを廻って馬は殆ど集団となって走っている。収益も不良債権の処理と経費の削減でかなり回復しています。しかし本当の勝負は第三コーナーからあります。収益構造の変革です。今までと同じようなビジネスのやり方では、再びもときた道に戻る可能性がありません。ここで我々はビジネスのあり方を変えてゆかねばならない。変えない限り、大きく収

給過剰と需要不足の両方が起きています。供給過剰を解消しようとする、救いの手が債権放棄という形で出てくる。そうすると供給過剰はなかなか解決し

この意味で滋賀大学経済学部で、リスク研究センターが設置されると言うことは、経営の本質に迫ることかと思いきや、待っています。経営そのものがリスクを生み出し、そしてまた

リスクを管理コントロールするところに挑戦していく必要があるわけ

リスクマップとリスク管理

今日、ここでご紹介するのは、欧米でよく展開されているリスクマップの使用です。当社がどういうリスクを抱えているかということがこのマップによって見られます。天災によるリスクもあるでしょう、事故によるリスクもあります。また役員

の不祥事によるリスクもあり、リスクの種類はいろいろです。縦軸に重大なリスクから等級をつけマップの上にくほど金額が高くなることを表し、リスクの発生頻度を横軸で表し右にくほど発生率が高い。このようになりリスクマップを見ながらリスクの管理を検討します。マップ上にマークをつけ、笑顔のマークはコントロール可能、三角眼のマークはコントロールするのにやや課題がある、通行止めの様なマークはコントロール不可能、これは大きなリスクだという印で一目瞭然に判ります。どの社員が見ても、新入社員が見ても当会社はどういうリスクを抱えているか、どれくらいの頻度で、どれくらいの金額でということがこの表でわかる。このようなマップの研究が滋賀大学経済学部博士課程においても進められるのではないかと思います。

それではこのようなマップによってリスクの問題が解決されるかという絶対には解決されません。リスクマネージメントは直ぐに効果の出るものではありません。リスクの本当の問題を解決するには、企業の生い立ち、企業の文化がリスクというもの

を映し出しているものであり、根気よく、熱意を持って教育を続けていくということが必要です。リスクに対して臆病になっている、それで仕事に対して熱意と情熱を欠くようでは困ります。ここで人材の育成が非常に難しくなっている。あまりにもリスクを騒ぎすぎると、将来に対する挑戦意欲が無くなりま

葉の問題、ミルクの問題など。下手をすると企業そのものの存在が危うくなる様なこと、過去においてはそれほど無かったことです。原発をめぐる電力の問題もそうでした。いろんな部分で企業リスクというものには企業そのものまで潰しかねない状況



までできているということですが、企業経営のなかでもっとも恐ろしいリスクはコーポレートブランドリスクだろうと思います。天災による事故とか、メンタルなリスク、あるいはカントリールリスクとかはお金で解決がつかず。お金で解決のできるこ

ならまだ宜しい。お金で解決できないリスク、これがコーポレートブランドリスクです。市場から抹殺されてしまうというリスクであり、現代の企業にとり最も重要で最も恐ろしいリスクであることを強調しておきたいと思います。

人間の心とリスク

リスクを避ける意味で非常に重大なことは、人間のリスクとすることであり、これを東大の法学部の調査で少しみて見ます。失敗の原因、リスクをとったあげく失敗した原因は、種類はいろいろありますが、未知、無知、不注意、手順をきちっとルールどおり遵守しなかった、誤った判断、調査検討の不足、などから出発するとあります。あるいは、制約条件が変化したにもかかわらず以前の制約条件にリンクさせたこと、企画が不良、価値観の欠乏、組織の運営がよくないなど、こういった問題が失敗事例の原因として調査結果に出ています。

他の調査では、マニュアル化の弊害、マニュアルどおりやれば大丈夫、その通りやっているんだ、という思い込みからのリスクがある。マニュアルどおり

やっているのだが、そこに手順の違いがある。マニュアルどおりやったつもりだけれどできていないというケースもあり、この思い込みが失敗につながる

また、役割分担の隙間から失敗の発生する率も非常に高い。誰かがこれはやっているだろう、これは貴方の分担する仕事だ、これは他の部でやっていることだ、隣は何をしようとそんなものは知るものか、私の知ったこっちゃない、こういうことが非常に大きなリスクになる。

こういう状況をふまえて考えると、やれシミュレーションをぶしていかないと、選択を安易にしすぎたとか、人間の活動する上のあらゆるものがリスクに繋がってきます。リスクは人そのものにあるのではないか、リスクは技術とか環境とかにも確かにあるが、それ以上にリスクは人の心そのものにあるのではないか。これが先の東大法学部の調査などで得られる解答ではないかと思ひます。

前に少し触れましたが、絶えず小さなリスク、失敗を起してそこに人の心の緊張感を持続させるといことが、ひょっとしたらリスクコントロールの証明

が必要とするところの答えではないかと思うこともあります。しかし小さな失敗を絶えず起こさせるといふことをやる自信はありません。これをやれと社員に言うとき、小さな失敗どころか大きな失敗を起す可能性がありませんが、私には言う勇気がありませんが（笑い）。ひょっとすると人の心がリスクの真髄とすれば、小さな失敗を起しながら絶えず人の心に緊張感を持続させるということが必要ではないか。何も起きない平和な時代を三十年間も過ごしたら必ず事故が起きるといふのが先ほどの巨大な橋の崩落の結論です。

リスクは技術の、技術者同志の世代間のギャップだという言葉が使われていますが、これは、天災は忘れた頃にやってくる、というのと同じです。リスクは忘れた頃に顕現化する。それは人々の心に隙間があるためです。人々の心に安心感が生ずる、リスクを忘れる、忘れるのに五年や十年でなく三十年ぐらいかかる、そうすると人々は過去の失敗を忘れ、リスクを忘れる。小さな失敗をできることなら起しながら、人の心に緊張感を持たせていくことが必要です。企業経営の場合、失敗の経

験をなかなか言う人はいないが、失敗した人にとってリスクは教訓にならないのではなか。失敗をしない人が失敗をした人の話を聞いても教訓にならないと思います。我々は過去の失敗の経験について教訓集を持っている。しかし成功の教訓集を作る人はあまりいません。失敗の教訓集を利用するので、これを見れば二度とこういう失敗はしない、しかし失敗をやるのです。なぜか。事業をやるときに一々過去の失敗例を、教訓集何ページ、何ページと見て事業をやっている間は間にあわない。見なくて全部自分のものになりますか、出来ない。人間は忘れます。実際に本当に身体にしみこんだ失敗例というものには失敗した本人だけのものです。痛い目に会う、非日常的な事件が起る、そこで始めて本人は二度と失敗を忘れない。ところがこの人は三十年も経ればいなくなる。そこで次の人がまた同じ失敗をするのです。「先輩があれだけ言ったのに、お前は」といふことになります。実際に失敗した本人だけにしか、本当の教訓にならないのではないか。このところは是非博士課程で研究願いたい（笑い）。

そこで、リスクの研究というのは心理学の研究を是非取り入れるべきだと思います。人の心の研究をリスクの研究の中核に据えるべきではないか。どうしても人間は三十年毎に傲慢になり、三十年近い間に人の心が縦び緊張感を欠いて、同じような失敗を繰り返すのか。これを解決する方法はあるか。私は無いと思いますが、小さな失敗を続けることによるしか人の心に緊張感を持続させることが出来ないという結論が出れば、私の仮説は立派なものになるわけですね（笑い）。人の心がリスクの本質だということになりますと、計画通り人が動きまわることで、リスクは限りなくゼロに近づくわけですが、人間は基本的には動物だと思います。これは私の何十年かのサラリーマン生活から得た結論です。人はさぼり、嘘をつく動物です。どんな立派な人でも一生涯、嘘をついたことの無い人は手を挙げてくれないといっても挙がるわけがない（笑い）。このことが大きなリスクです。

暑い盛りに冷房が入った部屋があつて、別の部屋に入っていない。どっちに行きますか。絶対に入った部屋に行きます。

寒い時は暖房した部屋に行く。当社の本社は冷暖房が完備している。そうすると暑い盛りは外に出ない（笑い）。寒い盛りも外に出ない。従つてお客さんを廻らない。これがリスクです。そこで「冷房を止めてしまえ」とそこで「お客様のところへ行きま」と会社は暑いけどそこは非常に涼しい（笑い）。寒い時なら暖かい所に行けばカムフラット、そこでお客様はありがたい、「現場に行きなさい」、ここが近江商人の真髄です。なんと行つてもこんなカムフラットな冷房クオーターは無いわけですから、表に出れば暑い、風も吹く、雨も降る。会社へ居ればお客様のところへ行くよりずっとカムフラットです。そうすると殆どお客様のところへ行かないわけです。やはり「冷暖房を止めちゃえ」と言うのですが、誰もやらない（笑い）。これが非常に大きな我々のリスクです。

現代の企業経営にも過去の企業経営にも同じことが言えるのですが、人間ほど扱いにくい動物はいない。そして人間ほど怖い動物もいない。これがリスクです。ここをしっかりと受け止めないと、企業の経営は絶対出来ないだろう、いくら失敗を研究し、いくら理論を精緻にしても、博士課程で研究しても（笑い）です。リスクを避けるということは学問の上でも結論は出ているけれど、リスクをコントロールするのに重要なコアになるものは、人間の心であると思います。人間とは何者だろう、人間の心の揺らぎはどうしたらよいか、ということがリスク研究の真髄にならなければいけない。この問題をどう乗り越えていくか、ここから結論を申し上げます。

結論として

それでは最後の決め手は何か。もっとこれからのいい話が聞けるとお思いでしょうが（笑い）、私の話は玉手箱ではありません。妙薬ではありません。しかしながらこういうことを努力しなければならぬということが申し上げることが出来ます。

一つは人間として真つ当な人であること。実に平凡な結論です。それには常識と良識を持ちなさい。自分の価値観をきちつと持ちなさい、常識をもった行動をしなさい。そのためにはどうするか。もちろん専門課程を修習することは大事なことです。それよりも大事なことはコ

モンセンスを養うことです。先「窃盗」とか「盗難」、こういう大学専門教育の前に人間と言葉を止めなさい、そんな綺麗な言葉を使うんじゃない、「泥棒」と言え、新聞に「泥棒」と大きく書きなさい、と言っておきます。こういう綺麗な言い方がすべて間違っています。「債権放棄」と言わずに「借金泥棒」と書け、そうすれば言葉というものとの衝撃があります。悪いことを綺麗事で済ませようとするから、道徳が衰えていくのです。だいたい道徳とか倫理とかは家庭で二歳くらいから善悪を教えなくてはいけないものです。お父さん、お母さんからこれをやってはいけない、とお尻を叩く、これをやっちゃ悪いんだと教える。今はいいいこと悪いことの区別を教えない。これはお父さんお母さんが判っていないからです。だから教えられない。子供たちがやっているのがゲームと漫画です。そこで価値観を学ぶのです。どういう人間が出来るでしょうか。企業経営はものすごいリスクを抱えています。そういう子供たちが大きくなつてどういう人間に育つか、めちゃくちゃな者はかりでは当然ありません、勿論立派な人間も育っています。しかし平均的にいえばリスクは非常に高いのです。

善悪をきちつと子供たちに教えるという地道な努力を先ずしなければなりません。善悪を教えるればほかの学科はたいしたことではない。会社としては会社の「読み書き算盤」を先ず教える。それから始めないといけない。經理の技術とか交渉の仕方などは、何時でも学ぶことが出来ます。問題は人間として真つ当ない判断が出来るように育てないといけない。先輩を敬う、礼儀はきちつと尽す、言葉の捉え方を教える。こういうことから始めていくことがリスクの軽減に、リスクのコントロールに一番重要なことと考えます。

二つ目は何か。クラウゼヴィッツの「戦争論」という著作があります。その中で、戦争は推測の世界だといわれています。データの四分の三は不確実性です。リスクです。戦争には四つの困難がある。それは危険、肉体的困難、不確実性、偶然性ということです。これらの困難に戦争は打ち勝たなければいけない。それに打ち勝つために先頭に立つのはリーダー、将です。将たるものこれに打ち勝たねばならない。企業経営もまさに戦いであり、経営者は将軍と同じ洞察力と決断力が必要で

す。一つ目に挙げた人間として真つ当であること、次に勇気で、決断力です。知性を働かせる前にまず勇気が必要になると思います。さもないとリスクを乗り越えることが出来ない。リスクに挑戦することが恐らく出来ないだろうと思います。しかし勇気さえあればよい。それは蛮勇というものです。勇気というのは知的な資産である。知的な知能の応用の中で始めて育てられた勇気であればならない。知識の修養なくして単なる勇気を出すということは蛮勇です。理由のない殴る、ぶん殴るということであつてはいけません。知の勇気ということ。現代企業経営のリスクに対する最終的な結論は、「人の心」にあります。これをどうコントロールして、セイブしてリスクを出来るだけミニマムにするか、この基本には玉手箱も、妙薬もありません。答えは実に平凡ですけど、人間として真つ当になる、あるいは軸のしっかりした人間を教育し育てる、ということになります。そして次にリーダーの「知の勇気」が必要である、ということをもって本日の結論と致します。ご静聴有難うございました。

* (二頁五段より)

わった。そしてドルをグローバル通貨としてのグローバルスタンダードは無くなった。グローバルスタンダードをいかにして超えてゆくか。先ず均一的、統一の規準に合せるのでなく、大きいものは小さいなりに、小さいものは小さいなりに、出来ることがあるということである。次に自己主張が認められるほど帰属意識は強くなるということがある。

日本経済がグローバル・スタンダードを超えるためには、日本経済のアジア化とローカル化を同時進行させてゆくことだ。経済の空洞化を恐れる余り、保護政策を取ってはいけない。均一化を押し付けて地域を潰してはいけない。いままでの枠組みは集権的管理の体制だった。これからは分権的競争の体制に入ることでグローバル・スタンダードを克服してゆかなければならないと思う。

この後、出席者一同による交流会が飲み物、滋賀県特産物をあしらえた軽食を挿んで行われ、商工業立地を所管する県内各自治体代表者を交えて賑やかに進められた。

主催者連絡先…滋賀県新産業振興課 電話〇七五二八―三七九二

こんにちは

富士貿易株式会社取締役会長
(前陵水会東京支部長)

小池 英夫氏 (大1回)

小池英夫氏は平成十年から十五年まで、陵水会東京支部長として、当会の発展に尽力された。また富士貿易株式会社の社長を昭和四十四年から平成九年まで務められた。その間における業界での永年の功績が認められ、一九九九年(平成十一年)勲五等双光章を受章された。

「こんにちは」席上には同社取締役社長・藤本幸延氏(大15回)が同席された。

●富士貿易株式会社 概要

創立 昭和二十八年(一九五三年) 五月十二日 資本金 一億円 従業員 一六〇名

事業内容 船舶必需品、船用機器、部品の調達及び販売、船舶代理業、飲食品や雑貨等の輸入販売等。

国内外事業所 横浜、東京、神戸、北九州、ロンドン、アメリカ、オランダ、シンガポール、デュバイ、香港、上海、韓国等。

本社所在地 神奈川県横浜市中区新山下三一九—三 電話〇四五—六二二—二六八六。

会社創立五十周年を記念して、「富士貿易五十年史」を二月二十日に出版された。邦語及び英文併記に基づく四六〇頁の大冊である。

なお、座談中にある当社の経営するイングリッシュパブ「タバーン」は、横浜市西区南幸町二—一四(横浜駅西口)明和ビルB1F。電話〇四五—三二二—九七二七。

開店時間 月々木 午後六時。金、土 午後五時。日 正午。NEW HAPPY HOUR S期間 月々金 6pm~8pm。

「NOMIHODAI」千九百円。詳細はホームページアドレス <http://www.the-tavern.com> に掲載。

——今日はお忙しいところ申し訳ありません。あらためまして五十周年記念おめでとうございます。きょうは、陵水会東京支部長を長らく勤めていただいたお礼もかねてお伺いいたしました。

小池 ようこそ、遠いところを。長いといっても、川本君(茂氏

大1)が十二年で、わたしは足掛け七年ですからね。卒業五十年は当社の五十周年でもあるわけです。お蔭様で当社も創立五十周年記念式典を挙げることで「富士貿易五十年史」も出すことができました。

——まずは、学生時代の思い出と、ご卒業直後のことをお伺いいたします。学生時代はボートマンとして活躍されたように伺ってますが。

小池 大学の講堂の横に集合教室があったでしょう。そこに経専の夏原というキャプテンが、ボート部に入りたい者は来いということ伊藤彰二君(大1)と行ったら、「お前みたいな小さい者はいらん、大きいのを連れて来い」といわれましたよ。大きいのを探しておったら、前田偉量君(大1)がいてね。彼を連れていったら二人とも入ってくれました。前田君が六番、わたしが七番を漕ぎ、伊藤君はマネージャーだったね。五番・六番はエンジンペアーといい、七番・八番はいわゆる整調ペアーでね。一番・二番と言うのは号令かける者。号令はコックスがかかるものだけど、一番・二番は風上にいるものだから、声がよく通るわけですよ。

フィックス艇の七番として乗ったが、名古屋で第五回国体があり二位になりました。彦根駅で、学長、学部長の秋山、大畑両先生方に送られてね。それまでのボート部の艇庫は廃屋に近かったですね。国体で二位になったら、片岡さんという先輩(別科11回)にエイトを買っていただいたんですよ。会社のオ



ーナーだったんだが、大したものですよ。ところがわたしは、もうボートには乗ることができなかつたんです。というのは、家業を手伝わなければならなかつたんですから。

——何歳のころですか。

小池 二十三の頃かな。一九五三年(昭和二十八年)三月十六日に卒業しましたが、四月に神

戸に行つて五月十二日に創立したんですよ。とにかく創業したが、そこには既存の明治屋をはじめ、競争相手数社が一般運輸船市場を抑えていたわけです。船手も足も出なかつたですね。船員の食料品とかの生活用品の充足が当初の仕事でした。いくらやっても歯が立たなかつた。ところが親父は偉かつたですね。人のやらないことをやらんといかんということで、戦後よくよく陽の目を見てきた新造船出船市場を狙えということでした。当時は見たこともない三万トン級の船をギリシャ船主のオナシスなどがダース単位で造っていたのに目をつけて業績をあげていき、富士貿易の名前が知られるようになりました。

ところが、急激に業績を上げた結果、創立十周年の頃に会社内部での労働組合問題、外部での外国為替問題で、紛糾しました。そこで、親父の命令で外国の顧客への事情説明も兼ねてオスロへ派遣されました。昭和三十八年の秋のことでした。三年間駐在していましたが、初めは敬遠していた人たちも、家内手製の日本食料理の接待に、一年になり、親しくなりました。有

色人種に対する偏見もなくな

り、わたしも彼等の良さが判るようになったのは大きな収穫でした。

ボートは体力？

——学生時代は、おうちのご苦労とかで、いまの学生と比べて大変だったんでしょね。

小池 大学では専門課程を殆んど出席できてなかったんです。それでも二十八年に卒業させて針を立てて、警察を呼ぶ呼ばないの外国船舶長との騒ぎの中、とうとう押し切りました。業界には不思議なシブ・チャンドラーがいると、富士貿易の名を世界に馳せることになりました。

一九六八年、会社を二分してまで本社を横浜に移し、販売市場の拡大を実現するとともに、一九七三年には五万点にのぼる多品種少量の船舶用品を図示した上、それぞれの呼称を英語から数字に置き換えたガイドブックを国際化することに成功しました。外国語を一番苦手とする日本人が数字一本にまとめたのですから、世界の同業者は喜びましたね。お蔭で、世界の富士貿易に一挙に駆け上がりまし

た。

——当時は港は横浜より神戸だったんですか。

小池 やっぱ横浜でしょうな

いう話をしてられましたが、ボートのトレーニングはきつかったですか。

小池 きつかったですなあ。親父の仕事を手伝ってるわけだから合宿に遅れるわけですよ。遅れるとその分バック台やらされるわけですね。先輩に厳しい人がいてね。体がボロボリいったねえ。食うものはないでしょう。合宿部屋へひいひいって帰ってきたものです。

そうそう、この前、高安さんのところへ行ってきましたよ。あの方、一月の十六日が誕生日やが、九十何歳で元氣だね。高商五回卒よ。当社の屋上に社員物故者の慰霊碑を建立しました

が、高安先輩の揮毫による「魂」の一字を刻んでいただきました。

——ボートのまとまりというのは、運動部の中では一番じゃないですか。

小池 その次はヨット部か。

(笑)

藤本 わたしはヨットなんです。そんなことから、ボートとヨットのことがあったら、わたしがボートのことをほろくそにいうわけですよ。それに会長が怒ってね、言い返して来るんです。

小池 社長は口がうまく、饒舌やから。わたしはおとなしいも

んや。

藤本 「ボートはねえ、体力だけですからねえ、体力さえあつたらいいんですからねえ。ヨットはその点、頭を使って状況を見ながらやらんといかんからねえ」というと、会長は「ヨットは風まかせやからなあ」と。「そうなんですよ、ヨットは風まかせやから頭を使わないとねえ、その分だけ……」となつてその辺でいい合いになるんですよ。だから酒飲んだらいつもそういう話になってましたね。

——会長は、いまはボートからヨットに興味がありますか。

小池 ヨットのほうが楽やからねえ。「富士貿易五十年史」の巻頭にあるこの写真はね、ベイ



ブリッジに入ってきたときに写したのですが、ちょうどその時、スイッチオンしたら、美空ひばりの「港町十三番地」がかかっているんですよ。このヨットは三十一フィートです。

——クルージングは外洋までい

かれるんですか。

小池 いやいや、四級だからいかれんですよ。外洋まで行こう

——若い時のことはまだまだお

伺いたいたんですが、オスロに駐在された時にびっくりするよ

うなことがあったとちよつと伺

小池 大学5回の柔道部の久木義雄君に、オスロの街の中で偶

然会ったわけですよ。彼ねえ、

ホッグという花屋の日本人の娘

を追いかけてきたわけね。久

木君に「お前どこや」と聞いた

——オスロの後は。

小池 オランダ、ロンドン、ニ

ューヨークとだんだん世界に広

がっていったんです。最も印象

に残るのはやっぱり一番長

——世界は何ヶ国くらい回られましたか。

小池 数えたことないけれどね。ヨーロッパだけでも相当あるからねえ。アフリカと南米は行ってませんから。新しい得意先としてワイン関係の得意先も、一九九〇年になってから増えました。

——お商売柄、客船で港々に寄っていらつしやるんですか。

小池 仕事上はやっぱり飛行機ですよ。客船に乗ったら、日がかかってねえ。それでも、仕事抜きの際は客船に乗って、高商20回の葛上さん（宗一郎氏）達と、地中海へ行ったりジブラルタルやトラファルガーへ行つたのは楽しかったですねえ。昨日も電話で話してたんですよ。ポルトガル首都リスボンで、海洋博物館を見て帰ってきたんだが、仕事抜きだったからよかったね。

——話は変わりますが、滋賀大からはいまも定期的に何人づつかは入社してるんですか。

小池 当初は、就職難の時代だったから、よい人がたくさん来てくれたね。今後、いい人が来てくれるためには、学校にPRしていくかなければならぬ。

藤本 いろいろ応募者はあるん

ですがね。能力があってもガッツがありませんとね。これは滋賀大だけじゃなくて、全体的にいえることですが。例えば、ペーパーテストをして足切りをするような場合がありますが、足切りは目安になるかもしれませんが、それだけでは不十分ですよ。

双光旭日賞受章

藤本 ところで、会長は会社創立以来、貿易協会、なかでも特に船用品業界の第一線で活躍されました。社団法人全日本マリ

ンサプライヤーズ協会の理事長として二十年間業界に貢献され、国際船用品供給者協会（ISSA）の理事として、また同協会の名誉役員（オナー・コミッTEE）に推挙される栄誉を得ました。業界での永年の功績が認められ、一九九九年（平成十一年）勲五等双光旭日章を受章しました。同年十一月八日、伝

達式に夫人とともに出席され、叙勲者を代表して受章、翌日天皇陛下に拝謁し、他の叙勲者とともに「わが国のために永年努力してくれて有り難う」とのお言葉を賜りました。

すが、横浜港の将来的な展望は。
小池 ベイブリッジから中を市民に開放して、丘の方は交通が渋滞しているから、海の方に向けてやったらいいんと違うかという構想があるんですよ。ただ単に交通だけはいかんから市民が寄るような場所・ステーションをつくると思えば、例えば中華街に関連するようなレストラン、香港のアバディーン海洋レストランのようなものができないかと言ってるんです。

——再開発が進んでいくと御社の事業は変わっていくんでしょうか。

小池 そりゃ変わっていくでしょうね。

藤本 しかし、再開発には時間がかかりますからね。横浜市も再開発協議会の意見を聞きながら進めているわけですが、市そのものが財政破綻寸前なものですから、金が出せないわけですよ。地下鉄は元町までできましたが、この先に本牧があります。そこまで行くのであれば新山下も違う意味の転換になるんじゃないかと、それができるかできないかも会長が働きかけてるんです。これも五年十年、いや二十年かかる話ですから。

寄り合う場所があれば

——いろいろお伺いいたしましたが、東京陵水支部長七年のご経験から、これからの東京陵水はどうあればよいでしょうかね。

小池 交流がもっと盛んになるようにしたいですね。活性化ね。ソフトの面で、人と人とが交じり合うような機会を作りたかつたんで、今、できてるのはゴルフと囲碁ぐらいなものですかな。

——総会の幹事の当番制については。

小池 あれは広がっていてもいいかな。

藤本 なんだかんだといったって彦根で過ごしたっていう気持ちちは皆もってますから。その意味で14回、15回の方がやったのはひとつの前進でしょうね。陵水懇話会というのがあります。これは五十歳になって、ある程度の経験を積んだ人たちの集まりになっているんですけれど。陵水懇話会がきっかけで、同期会が活発になっていて。

——あれはいい伝統ですね。

藤本 東京の新橋なら新橋で、集まれるような場所があればいいですよ。わたしは以前、兵庫陵水のメンバーだったんで

す。震災が起るまでは神戸大学OBの集まる喫茶店があったんですが、その喫茶店のひとつの部屋を借りてよく理事会をやっていたが、神戸大学はそういうのがあるからね。そういう集まる場所があるといいんですがね。会費集めるのか寄付を仰ぐのか、いろいろ方法があると思いますが、資金的にもある程度潤沢な東京陵水でありたいですね。我々富士貿易は横浜に飲み屋を出してるんですがね。例えば土曜日の昼とかに集まると、集まることはできるんじゃないかと、横浜というのはちょっと遠いですよ。

——東京にお出しになる構想はありませんか。タバーンとかいうイングリッシュパブですね。

藤本 これはイギリス人といっしょに組んでやってますが、イギリス人が店の店長です。土曜日、日曜日は昼からやっておるんですが、ウィークデイは夜からです。

——「東京陵水」へのご注文とか感想は

小池 この前、守谷君のこと書いてくれましたね。（本紙八四号「こんにち」）守谷輸送機工業株式会社社長・守谷貞夫氏——編集部 評判よかったですね。

卒業生が元気でやっとなるよということをPRしてもらおうと、高商から大学の連中までハッスルするのとは違いますか？

我々も原稿を若い人にいただくとか、広げていくようにしているんですがね。

小池 昨日ね、葛上さんと電話してたら、ホームページ開いたら葛上という名前がたくさん出てくるっていうものすごく喜んでた。みんなの関心を陵水に引きつけていかなければいかんね。編集委員の皆さんもホームページの編集に協力してもらおうと活発になると思います。ホームページが読まれたすとOB企業も掲載を考えるでしょう。まだまだ話は尽きないんですが、今日はどうも有難うございました。

◎当社の屋上に社員物故者の慰霊碑を建立しましたが、高安先輩の揮毫による「魂」の一字を刻んでいただきました。



今年二〇〇四年の一月二八日、滋賀大学名誉教授・経済学博士・勲三等旭日中授章受章者である有田正三先生が胆管ガンでお亡くなりになりました。享年八十九歳でした。

有田先生は一九一四年のお生まれで、一九三七年京都大学をご卒業後、同大学の講師を経て一九四七年滋賀大学経済学部（当時は彦根経済専門学校）の教授として任官され、以来一九八〇年に退官されるまで三十三年間の長きにわたりわが母校で教鞭をとられました。私が在学していた当時必須科目であった先生の統計学の講義は単なる講義ではなく、毎回が哲学、歴史、時には文学なども織り込んで含蓄ある一時間半の講演会のような講義であったように記憶しています。

一九六三年、私は先生のお人柄に惹かれ有田ゼミに入れていただきました。先生は当時彦根の芹町にお住まいになっておられました。我々ゼミ生はよくご自宅に呼んでいただき、先生のお話を聞き奥様の手料理をご馳走になったものでした。その

有田正三先生を偲ぶ

近藤達也（大13）

ような場での先生は我々に対して、教授と学生という上下の関係ではなく、人間と人間という態度で暖かく接していただきました。二〇歳前後という年代でこのような先生との出会いと交流は、私の人格形成の上で大きな意味を持つものでありました。

有田ゼミの面白さは、在学中よりむしろ卒業してからの方が先生とゼミ生、そして年齢を問わないゼミ生同志の親密の度合いが深まったことにあります。一九六二年に、ゼミ生OBを中心としたメンバーで「有田会」が発足しました（代表幹事は大6回卒の杓名敏郎氏です）。以来二〇〇二年までのあしかけ四十一年もの間、毎年一度も欠かすことなく、先生ご夫妻（奥様は一九九一年にお亡くなりになりました）に出席していただいていた。各地で泊りがけの有田会が開かれました。その会では全員がすっかり学生時代の気分に戻って先生のお話を聞き、お互いの現状報告をしあうと共に人生と社会を論じ合うことが続きました。私も皆出席ではありませ

んでしたが何回か幹事役も引き受け、この会が一年で最も楽しみな行事となりました。二〇〇二年十月二十六日の京都での有田会では先生の米寿をお祝いする会でもありましたが、奇しくもこれが先生の出席された最後の会になってしまいました。写真はその時のものです。二〇〇三年十一月に四十二年目の会が開かれましたが、先生は直前に体調を崩し欠席されました。奥様は永年絵更紗に取組まれ多くの作品を遺されました。先生はそのうち秀作三十二点を選び、自ら解説を加えた「有田あや絵更紗抄」を二〇〇〇年十月に丸善から出版され、また同時に記念の作品展も開かれました。この出版に当たっても有田会の何人かがいろいろ相談を受けます。この会は先生にとっても頼りになる弟子たちの集まりだったのではないのでしょうか。

有田先生はこよなく日本を愛し、人間を愛し、学問・芸術を愛されました。そしてまた滋賀大学とその学生であった私たちを愛し、最後まで情熱を持って導いてくださいました。

先生、長い間本当に有難うございました。私達は何時までも先生を忘れません。どうぞ安らかに眠りください。

有田正三先生米寿の祝い



「OB戦徒然草」から

岡本文夫（大18回）

○彦根初！女子選手の先鋒戦

この年（昭和十四年度）のOB戦では、陵柔会の歴史始まって以来の女子選手による対戦が行われた。OBチームは卒業二年目の元洲美也子初段。現役チームは二回生の西めぐ美初段。常に先手を取って相手を前後左右に崩して、手数に勝る現役の西初段が先輩の元洲初段を屠って、現役チームが先鋒戦でリードした。

試合の勝ち負けはともかく、卒業してから昇段した元洲君の継続的努力には敬意を表したい。

この調子でさらに上を目指して欲しいものである。男子の軟弱化が嘆かれる世相において、柔道初段は仕事の領域においてまたとないプレゼンスを示すことができるし、素晴らしい花嫁道具になることは請け合いです。

西君とは二年連続して試合後の乱取りの相手をしてもらったが、確かに強くなっていた。前年に比べれば動きに無駄が少なくなっているところに、西君の成長が見て取れる。また元洲君のように卒業してから腕を挙げた実例を見るのは実に気がいい。

い。

○珍しかった頃の女子学生

それにしても時代は変わった。小生の在学中（昭和四十年代前半）は四学年合しても学生数が八百名を超えたことがなかった。女子学生は、一学年上に一名、一学年下に一名という稀少な存在であった。二学年下に三名の入学があった時には、「三名もや」と学生達は色めきたったものだ。それが現在では学生の三割が女子学生だというのだから驚かされる。女子学生が稀少だった頃は、経済原論の教室で一期上の「小百合ちゃん」を発見した時は、小生はわざわざ隣の席に座って観察に励んだものだった。残念ながら同名であったが吉永小百合には余り似ていなかった。

一学年下の女子学生が入学した時には、遂に大学も将来的にも女子学生の入学が続く事を覚悟して、大学事務局の横に女性用トイレを初めて建設した。一年後輩の女子学生である小林君は柔道部にこそ入らなかったが、小倉ゼミの後輩となった。困ったのはゼミで時折開催されるコンパのときだった。酒を全くお飲みにならない小倉先生

は、放歌高吟が始まると、ご自分分は「山男の歌」を唄われて、後は気を利かせてサッサと先にお帰りになるのが常であった。自分が残っていると、ゼミ生達がやり辛かろうとの先生のご配慮であったと思う。男だけの世界になってしまふのだから小林嬢も帰るんだらうと見ていたが、帰ろうとする気配はなかった。フェミニストの小生は女子学生がいると気持を慮っておかしな歌が唄えなくなる。酔っ払ったお調子者が、女子学生が居るのにも構わず得意げに唄い始める。小林嬢はと見れば席を立てただけ。ゼミ幹事であった小生としては立場上心にもない台詞を吐かなければならなかった。

「君、そんな歌は止めとけよ」。

○オリンピックの星 小松やわらちゃん

柔道をこよなく愛する小生は、子供二人にも柔道を習わせなかった。しかし長男が嫌がるようになり、しからば長女にと考えたが、女房の離婚も辞さずという必死の反対に遭って夢は潰えた。

その点羨ましくて仕方がないのが、小松睦弘君（大36回）の

お嬢さんの「やわら」ちゃんである。娘にこの名を付けた小松君の、小生でも及ばない柔道への思い入れが見て取れてみごとである。

三年前のOB戦に彼が柔道着を着た幼稚園児を連れてきた。

可愛くて仕方がないので、試合前のウォーミングアップでやわらちゃんと段取りをしてみて驚いた。幼児であるにも拘らず、仕掛けてくる技が基本に忠実に完成度が高いのだ。小松君の慈しみ方を理解する一方、この子は天才ではないかと思っ

た。その時彼女が掛けてきた技は『背負い投げ』『大内刈り』『支え釣り込み足』の三つであった。やわらちゃんの御蔭で充分な準備運動が出来て、自分身の試合の出番がきた。対戦相手の久瀬裕貴君（当時4年生）は機敏な動きで、なかなか小生の得意な間合いに入ってくれなかった。その時、天啓のようにやわらちゃんの支え釣り込み足が脳裏に閃いた。若い頃もあまり使ったことがなかったこの技は、試合前にやわらちゃんが使

ってくれなければ永らく忘れていた技であった。次の瞬間、久瀬君の両足の間に左足を踏み込むと相手の左足を支えて、相手

の身体を大きく引き捻った。久瀬君は大きく宙を舞って小生の右側方に落ちた。引き分けまでの時間ギリギリの一本勝ちであった。やわらちゃんがプレゼントしてくれた一本勝ちのようなものであった。

小松君が今年はファミリーを連れて参加した。勿論やわらちゃんも一緒だった。残念ながら彼女は小生の事は忘れていたようだが、それでは改めて自己紹介の乱取りとなった。やわらちゃん

は更に腕を挙げていた。背負い投げの技術は更に上達して、油断していたら小生の股の間にやわらちゃんのお尻が入ってきて、完全に浮かせられて一本取られてしまった。

支え釣り込み足はあまり出さなくなっていたが、スピードのある大内刈りと小内刈りのコンビネーションが見事であった。

次のオリンピックには間に合わないだろうが、その次には間に合う世代であるはずだ。逸材を旨く厳しく育てて、やわらちゃんを大舞台に立たせて欲しいものである。

（紙面構成の都合上、筆者に断りなく書き改めた箇所があります。紙上を借りてお願いし、お詫びします。編集部）

縁に育まれ生かされて

四塚行雄（大2回）

一、六無
いかりなく おそれもなく
つかれなく くなく うむなく
やむときもなし

これは昭和三十五年八月二十一日父母と長野の善光寺にお参りしたときに、正面玄関の脇に立てかけてある布板（畳一枚く

短歌

久々の彦根で

鳥居 和也（本21）

四〇〇年木組み石組み揺ぎなき天守閣の階段まこと急なる

外濠に沿って緑の土手行けば彼岸花立つ人恋うごとく

白壁と黒の格子の家並よしキャッスルロードと名付けし通り

暮かかり大手門への人気なく「両替商」の看板光る

佐和山の麓にしずまる石庭の寺の片すみ三成の墓

らしいの大きさ）に墨黒々と書かれていたもので、自戒の意味で名刺の裏に押印している。

二、塞翁が馬

敗戦後外地から引き揚げ、難

四、悉皆成仏

病と言われる「脊髄カリエス」にとりつかれた。引揚げという経済的事情とまだ国民皆保険制度になつていないこともあり、良いと言われる民間療法は何でも試した。胴に巻きつける簀巻

のようである。

五、あるがままに

ここ七十二年間歩んできた道を回顧すると、自分のまわりに起きる縁（えにし）から逃れようとせず、時々刻々全てをあるがままに受け入れる覚悟が肝要であり、そうすれば対応策は自ずと生まれる、と感ずる今日この頃です。

裏を見せ 表を見せて散る紅葉

（良寛）

晴れてよし曇りてもよし富士の山（山岡鉄舟）

図書紹介

「遙けくも来つるものかな越し方ぞ果な知らねそ雲のあなたは」 近江陸奥彦 文芸社

平成十五年八月十五日発行

定価千円＋税

著者の本名は小笠原滋氏。彦根高商十九回卒、軍隊経験を経て、揖斐川電気工業に入社、常務取締役就任のあと、監査役を以って平成三年六月同社を退社。著作は、大正末期の生い立ち、激動の戦前の昭和、焼け跡から高度成長の日本経済の発展期を記述し、自分史として、また個人の昭和史として優れた読

み物。貴重な経験をこまを切つて、コンパクトにまとめ、文体も伸び伸びとして読みやすく書かれている。各ページにちりばめられた写真や図解は筆者の思い入ればかりでなく、読者の郷愁を誘うものになっている。一九二二年生まれの著者は本年八十二歳の高齢に至ったが、この長い人生を大過なく過ごしてきたことの尊さを文中に登場した人々と、読者が共に寿ぐことができる。母校彦根高商について一章を設け、入学の動機、学園生活、教授陣寸描、卒業後の縁、当時の彦根町の雰囲気が生写されている。

四月陽春 桜花に包まれて

開花の早かった今年の桜、随所に満開で、風が強かったものの、絶好のゴルフ日和。ただ、グリーンが高麗の本グリーン、距離と傾斜が難しく、珍しくアングラーパーが無く、二オーバーの小生が思いがけない優勝。

次回は六月九日水曜日、入梅前の好天を期待。

記録 ネット（ハンディ）

優勝	箸方	海三（大4）	73（14）
二位	名口	幸夫（大14）	74（7）
三位	三宅	義男（大6）	75（23）
四位	山田	進（大10）	75（7）
五位	田村	寿夫（大12）	75（30）
七位	北川	享（大4）	77（23）
十位	佐藤	秀孝（大9）	78（20）
十五位	吉原	悟一（大9）	83（21）
二十位	木戸	彪（大16）	86（30）
BB	橋本	侃（本22）	98（25）
ベスグロ	名口		81
ニヤピン	三宅	山田	柴田
（大2）	簗島（大4）	中西（大5）	

大波 西岡（大4）
参加者 30名（箸方記）

新しく参加希望される方は、
〇三―三九七九―八四七三
箸方氏まで一報下さい。

（編集部）



第五十七回東京陵水ゴルフ会
平成十六年四月六日（火）
金乃台カントリークラブ



彦根コンフィデンスナル

—— 滋大陵水新聞会

平成十五年五月現在、滋賀大学経済学部には、学部生、院生、研究生を合せて百十二人の留学生が在籍している。

今回、中国内モンゴル自治区出身、二〇〇一年に本学に入学した留学生会会長の石永峰さん（企業経営学科）にお話を伺った。

学生の場合

交流留学生会はその名からクラブに似ていると思われるかもしれないが、クラブとは違って、活動や会議等の強制的なことは出来ない。皆、空いている時間に留学生交流室に来ておしゃべりをするという、交流会は年に十数回、出来るだけ月一回で行えるようにしている。例えば、七月にはハート・ツウ・ハートという学部長との交流を行ったり、ベルロード国際交流（毎年八月下旬開催）で屋台を出したりした。今年一月十八日には旧暦の正月を祝う春節交流会が行われ、県立大学、聖泉大学の学生との交流も行われた。また十

授業について

授業の難しさについては二つの面から話すことが出来る。一つは留学生の日本語能力から、

国立大学の入学には日本語検定一級が必須であるので基本的能力は持っているのだが、試験に合格できることがそのまま日本語が出来るとは限らない。日本語学校では一級取得が目的だったが、入学後はその実力を基礎としてそこから勉強しなければならぬ。

もう一つは先生の講義の仕方である。講義の分かりやすい先生と聴いても判からない先生がいる。留学生にとって判かりやすい授業のポイントとは、話し方、内容、授業の補助の有無である。話し方について言えば、方言やスピードの速い語り方はわかりにくい。女性の先生の講義は判かりやすいとのことだが、当学部にはその先生が少ない。内容をよく知っている話なら判かりやすいし、板書やレジユメ等は理解の助けになるといふ。また判かりやすい先生の情報は先輩から後輩へと伝わる。この辺りは日本の学生と全く変わらない。

語学に関しては苦勞するといふ。通常留学生は日本語と母国語が自由に話すことが出来る。英語は日本人と一緒に、勉強の差で喋る能力が異なる。第二外国語になると喋るまでにはな

なかならない。平成十一年度の入学生からは、第二外国語に日本語が選べるようになり選択している学生もいる。

アルバイトについて

多くの留学生はアルバイトをして自立している。この「自立」である石さんは認識していている。多くの日本人学生はアルバイトで得た収入は小遣いになるが、留学生の場合は生活費になる。したがって時間的な余裕が少ないので、クラブに入って活動する人は少ない。（クラブに所属している人は一人だけのこと。）生活費を稼がなければならぬということを目指して、石さんは「自立」を語る。

留学生の数は年々増えつつあるため、様々な制度、施設が整いつつある。留学生交流室や留学生センターは二〇〇一年に開かれたばかりだ。だが留学生会の役員が四人しかいない等の問題点も指摘できるという。石さんは留学生会がより合理的な組織になって欲しいと思っている。

（滋賀大学陵水新聞会

梶内愛子）

東京陵水会囲碁会便り

東京陵水囲碁会のメンバーも四十五人を超えるまでになりました。今年は大会を二、三回開催したいと思っています。

名古屋地区の陵水囲碁同好会が新しく発足しました。その記念ともいふべき東京、名古屋、大阪三地区の合同囲碁大会が名古屋地区主催により、知多半島で五月十二、十三日にわたり開催されます。

囲碁同好会も益々盛況になってきましたが、若い諸氏の参加が増えることを期待しています。

幹事…三井照次（大10）

平成十六年度母校入学式

平成十六年度母校入学式は、経済学部、教育学部合同で、四月七日（水）午前十一時から、彦根市文化プラザ（彦根市野瀬町）にて挙行された。

式次第が、開会の辞、学歌斉唱、入学生宣誓、学長告辞、来賓祝辞、歓迎の辞、大学役職員・来賓紹介、閉会の辞とつづいた。

なお、受験速報によれば、経済学部の受験者数はおおよそ二千二百名、合格者は六百七十名、入試倍率は三・三倍である。

母校・創立八十周年記念学術後援基金個人募金東京支部既応募者名簿(続)

十五年十月二十五日から本年三月四日現在まで。敬称略

片岡 康(本11)、中川綾子

(本12・故敏徳氏夫人)、白石俊

治(本17)、葛上宗一郎(本20)、

井口博民(本21)、寺本康郎

(本22)、山田昌雄(本23)、保

正 保(本24)、長沢正夫(別

3)、簗島安夫(大4)、大久保

義雄 青木 滋(大6)、伊藤

芳朗(大7)、山田浩太(大11)、

藤井哲有(大12)、小口 晃

(大14)、小山久照(大19)、米

山 修(大21)、武藤勝昭(大

23)、岡本幸博 田尻信治 角

本正壮 武藤弘明 楠田芳弘

田村弘昭 永田雅典 山本哲治

濱塚純一 深田拓夫(大25)、

西村 易(大27)、正面順久

(大31)、穂積秀明(大34)、上

田 修(大42)、傘木良三(短

6) 以上三十四名。

(注・葛上宗一郎氏については、

先号に掲載すべきところを漏ら

してしまいました。お詫びいた

します。

なお、先号掲載の方で、以下

の四名は、二度応募されていま

す。亀井潤吉(大2)、田中

(宇野) 博(大3)、黒澤日出男

(大11)、守谷(佐名手) 貞夫

(大12)。従って、先号までの応

募者二百六十六名を二百六十四

名と訂正し、今回の三十四名を

合わせ、最終二百九十八名とな

ります。

党支部募金総額は、五九〇万

七九八〇円。

先号掲載名簿に次の方々の氏

名に誤りがありました。お詫び

し、訂正いたします。

誤

吉村行雄(本21)

吉田光雄(本23)

石垣 康(大10)

小林三郎(大13)

小谷兼夫(大13)

影山哲也(大18)

深谷靖純(大23)

西村行雄

古田光雄

石垣 廉

小村三郎

小谷歳夫

彰山哲也

溪谷靖純

編集室

四月一日、いよいよ国立大学

の独立法人化がスタートしまし

た。各大学独自の取り組みがい

ろいろ喧伝されている中で、母

校の動きはどうであろうか。陵

水人として目下の最大関心事で

しょう。今度の支部総会での阿

知羅学部長の特別講演が大いに

注目されるところです。総会へ

の会員諸氏の多数参加を、大学

十六回卒の幹事各位とともにお願いする次第です。

今号は、支部総会開催の日程

とリンクして本紙を発行してき

た慣例に従って、昨年までより

も約一月発行を早めました。前

号発行との開きが少なかったため、

原稿の準備に忙しい思いをしま

した。次号は十一月となります。

充実した紙面から母校を支援

したくご協力ください。(S)

「会報」原稿・情報「送付先

林 史欣(大8回)

〒164-0014

中野区南台二一五一〇

(TEL・FAXとも)

〇三三三八一四四三一

※編集室のメールアドレスを

chikayoshihayashi@nifty.com

としましたので利用下さい。

(次号分は切日八月末日)

発行所

〒236-0004

横浜市金沢区福浦1-14-9

守谷輸送機工業(株)

陵水会東京支部 支部長 宇治原嘉政

電話045(785) 3716

印刷所

〒110-0015

東京都台東区東上野1-28-3

船舶印刷(株)

電話03(3831) 4181



琵琶湖に帰る!

思い出の琵琶湖岸で充実したシニアライフを!

入居一時金 1,930万円~8,370万円(一人分の介護一時金420万円(税込)を含みます。二人入居の場合は970万円(税込)を加算下さい。)

主な生活サービス

- JR雄琴駅までの送迎バス ●近隣スーパーへの買い物バス ●大津赤十字病院への送迎バス
- 日用品の販売、クリーニング・書籍・写真現像取り次ぎ ●銀行出張サービス
- 会社又は協力医療機関の担当医師の指示による、食事の配膳、清掃、洗濯、指定病院への送迎・入院中の訪問(洗濯、買物代行等) ●生活相談、健康相談、栄養相談

表示事項

- 類型 / 介護付有料老人ホーム
- 介護保険/滋賀県指定介護保険特設施設
- 居住の権利形態/終身利用権方式
- 介護居室区分/相部屋あり(1人~4人部屋)
- 入居時の要件/入居時自立
- 介護にかかわる職員体制/2:1以上

介護付 有料老人ホーム アクティバ 琵琶

医療と福祉分野に隣接する 信頼と実績の30年

メデカ ジャパングループ

- ケアセンター **そよ風** ●社会福祉法人 元気村・長寿村
- 滞在型ホテル **そよ風** ぶなの森 玉川温泉 **そよ風** 湯治館
- 協会加盟有料老人ホーム
- アクティバ琵琶(滋賀) ●光ハイツ・ヴェラス(北海道/4施設)
- ケアヴィレッジ・美乃里(埼玉)

交通のご案内

- ◆自家用車の場合…名神「京都東I.C.」下車、国道161号線を琵琶湖沿いに北上、雄琴温泉街を越えて右手に看板あり。
- ◆JRの場合…JR「京都駅」から西線「雄琴駅」下車、徒歩15分。



(社)全国有料老人ホーム協会員

アクティバ 株式会社

〒520-0101 大津市雄琴6丁目17番17号

☎(077)578-2911 〆(077)578-7111

お問い合わせは **0120-78-1165**

ホームページ <http://www.activa.co.jp/>
(営業部 高橋 英生 大学34回卒)